

1 第9次土浦市総合計画答申（案）について

No.	主な御意見等	回答・対応
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>新型コロナウイルスの影響の部分について、少し加え切れていないところがあると感じた。資料Ⅱの意見No.13の修正の方針の中で、コロナの影響で都市から地方への分散の動きがあり、土浦市でもその傾向が少し見られ始めているという話があったかと思う。これまでの委員会でも、直近の人口の動きの中で土浦市にとっては少し追い風になるような大きな兆しがあるという議論があったが、今回改めて総合計画（案）を見ると、資料Ⅲ－2の36頁の課題の取りまとめの中で、その兆しが出る前のことを議論してしまっており、人が減ってしまう、活力が低下してしまう、だから対策が必要だという書き方をしている。特に「(1) 新型コロナウイルス感染症収束後の新たな社会を見据えた対応」においては、地方に住みたいという兆しもあり、それを的確に捕まえていくことが必要だという記述があってもよいのではないか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>御意見のとおりかと存じますので、御指摘の部分については、作成後に公表された国の統計調査の結果により推測される新型コロナウイルス感染症の影響が本市に与えている社会構造の変化とその対応についても、反映する形で、別紙第9次土浦市総合計画案（資料Ⅲ－2）新旧対照表のとおり修正いたしました。</li> </ul>
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>資料Ⅲ－2の38頁の「(5) 人の価値観や市民ニーズの多様化・高度化に向けた対応」について、「時代の変化に伴うライフスタイルの変容により、人の価値観はますます多様化しています。本市においても、これまで、多様性と包容力にあふれる地域社会の実現に向けて…」とあるが、男女共同社会や男女共同参画や多文化共生は、価値観の多様化により生じた問題ではなく、人権の問題であるため、タイトルも含めて再考していただきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>御意見のとおりかと存じますので、該当部分につき、別紙第9次土浦市総合計画案（資料Ⅲ－2）新旧対照表のとおり修正いたしました。</li> </ul>
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>資料Ⅲ－2の39頁の「土浦型地域包括ケアシステム」の記</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>御意見のとおりかと存じますので、該当部分につき、別紙土</li> </ul>

No.	主な御意見等	回答・対応
	<p>載について、内容としては国の政策についての説明であるが、このシステムは、市が全国に先駆けてやってきたものであり、それこそが「地域の宝」と考えている。社会福祉協議会等で、地域の方々が安心して暮らすことができるための公的なサービスから、地域単位の小さな支援も使ってサポートしようという点が土浦型のふれあいネットワークであるため、そこを書いてもらった方がよいのではないか。</p>	<p>浦市総合計画案（資料Ⅲ－２）新旧対照表のとおり修正いたしました。</p>
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 資料Ⅲ－２の５２頁のリーディングプロジェクト１について、「子どもが夢と希望を持ち」という記載があるが、人口増加に成功している流山市では、定住の対象をどこに置くかということを決めた上で、「子どもが夢と希望を持つ」ということではなく、親に対して、「母になるなら流山」、「父になるなら流山」というフレーズに示されているようなインセンティブを与えている。私は、移動する人を増やしていくためには、父親・母親にインセンティブを与える流山市のような発想が必要ではないか。</li> <li>・ 本市の人口が減っていき、だんだん貧しくなることを防ぐためには、流山市のように親にフォーカスして様々な取組を行うべきではないか。このまちの人口を増やすためには、市民意見も大切であるが、市民以外の人はどう思っているのかという視線もこの中に入れないと人を呼ぶことにはつながらないと感じる。例えば流山市は、秋葉原で調査やマーケティングを行っており、この審議会や総合計画のどこかにそういった視点も入ってほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本総合計画においては、資料Ⅲ－２の４６～４７頁にあるとおり、本市の課題である人口減少と少子高齢化を解決するために、シティプロモーションにより本市の魅力を発信することで、「交流人口」や「関係人口」を拡大し、定住人口を増加につなげていきたいと考えています。</li> <li>・ 御意見にあるような移住定住のターゲットにつきましては、資料Ⅲ－２の５６頁のリーディングプロジェクト２、政策方針２の主導する取組２「シティプロモーション戦略の展開」において、市民にシビックプライドを持っていただく一方で、一人でも多くの人に本市を訪れてもらい、選んでもらえるよう、「第２期つちうらシティプロモーション戦略プラン」に基づき、若者や現在本市に訪れることが増えているサイクリストを始め、様々なターゲットに効果的に届くような施策を展開していきたいと考えています。</li> <li>・ リーディングプロジェクト１につきましては、これまでの議論の中で、子どもを主体とする表現に改めた経緯があります。また、移住定住の施策におけるターゲットは、親も子どもなり得るものと考えますが、教育の観点からは、子どもたちに</li> </ul>

No.	主な御意見等	回答・対応
		<p>良い教育環境や丁寧な授業を提供する観点で、教育環境を整えるために、現在コミュニティスクールなど、地域と行政と学校が一体となった改革を進めているところであり、土浦に来れば、子どもたちは家庭だけでなく様々なところでサポートしてくれるということを親に感じてもらえれば、転入促進や転出抑制につながることも期待されることから、子どもたちにスポットを当てていった方が、より幅広く人口対策に対応できるものと考えています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>御意見を踏まえ、資料Ⅲ－２の５２頁のリーディングプロジェクト１におきましては、別紙第９次土浦市総合計画案（資料Ⅲ－２）新旧対照表のとおり、プロジェクト自体は子どもを主眼としつつ、こうした施策が本市の移住定住にもつながる旨の表現を加えました。</li> </ul>
5	<ul style="list-style-type: none"> <li>資料Ⅱの意見No.9に対する市の回答について、「つくばエクスプレスとＪＲ常磐線を最短の土浦駅で接続するのがよいと考えている」といったニュアンスの記載があるが、土浦市内への接続ではなく、土浦駅に限定しての接続というのは、どこかでコンセンサスが形成されているのか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>御指摘の部分については、表記の誤りであるため、以下のとおり修正いたしました。</li> </ul> <p><b>修正部分：</b>  <b>【資料Ⅱ】第９次土浦市総合計画（案）のパブリック・コメント実施結果について５頁意見No.9の右欄（意見に対する考え方・修正の方針及びその内容）１～２行目</b></p> <p><b>修正箇所：下線部及び見え消しで示す部分</b>  「御意見のとおり、本市としても、つくばエクスプレスとＪＲ常磐線を<b>最短の土浦駅市内</b>で接続し、つくば駅で止まってしまっている人の流れを、県全体の発展につなげていくべきと考えております。」</p>

No.	主な御意見等	回答・対応
6	<ul style="list-style-type: none"> <li>資料Ⅱの意見No.16の市の回答にもあるが、ふるさと納税について、市民が市外へ納税しているという現状があり、市民が誇りを持って地元を大切にしようという思いがないのはよくない。流入人口や定住人口を増やすことももちろん大切であるが、土浦市民も他市町村へ納税しないようしっかりした検討をしていかなければいけないのではないかと。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ふるさと納税につきましては、制度上、市民は市に寄付しても返礼品がもらえないため、どうしても市外へ寄付してしまうという実情があります。また、実際、経費が5割ぐらいで、市外へ寄付した分は税額控除になるため、制度の充実を強力に進めていかなければ市の持ち出しがかえって増えてしまうことから、できる限り寄付額を増やしていく必要があります。さらに、返礼品については地場産品であり、本市のPRもできるため、その点はしっかりとお伝えし、土浦に行ってみようと思ってもらえるよう積極的に展開していきたいと考えています。</li> </ul>